



第118号

社会福祉法人
 ロザリオの聖母会
 千葉県旭市野中4017
 Tel (0479) 60-0600
 ホームページアドレス
<http://www.rosario.jp>
 Eメールアドレス
honbu@rosario.jp

地域福祉の時代

理事長 細渕宗重

新年おめでとうございます。皆様にとり本年も良い年でありますようにお祈り申し上げます。

今年の新年は混迷のうちに迎えたように思います。昨年は、戦後続いてきたひとつの体制の耐用年数が過ぎたなかで生じた政権交代という環境に、まだ期待するところがありません。しかし一年のうちに、私たちの社会は政治問題の以前に、社会のあり方についての国民の合意ができていないことを知りました。

私たちの社会には羅針盤の無いままに、さまざまな事象に遭遇いたしました。

高齢は寿ぐべきことであつたにもかかわらず、高齢者を厄介するような高齢者保険制度が問題になったり、生きていくはずの高齢者がその存在さえ、行政レベルでもわからなくなっていること、多くの一人住まいが放置され、自殺者も記録的な数にのぼることなど、その一例です。

このような問題は、無縁社会といわれる言葉が生まれたように、年代を問わず社会の隅々までいきわたつ

てしまっていることに気づいたのです。

戦後、我々は焼け野原におかれ、人間の生存に欠くことのできない食べ物さえ無い状態から始まりました。最低限の食べ物はアメリカの援助によって救われ、国民の全員が経済の復興に努力しました。

今になってみると、このときから、社会のあり方についての議論の無いままに、「経済の復興」からその延長で「経済の成長」に進み、そのまま今日まで来て、いつしか経済成長が社会の目的になり、社会のオピニオンリーダーであるべき新聞までもが毎日、「成長率」と「GDP」が記事の中心になっていました。

そこには、経済大国にはなつたが、国民の幸せ感は世界で九十何番目という奇妙な社会がありました。人を幸せにするための「経済」が人の不幸の原因になるような事態も見られるようになりました。

経済は人が幸せになるために必要なものでした。しかしいつしか、目

的にはなり得ない「経済」が目的になってしまっていました。

今私たちは、社会の目的は人の幸せであること、そして経済はそのための大変重要な「手段」である、という位置づけをはっきりさせる必要があります。

戦後、私たちにとっては「医療」が福祉でした。社会保険や生活保護をはじめとしてさまざまな制度が整えられました。

遅れていた福祉もはじめは「病院」や「入所施設」が福祉そのものでした。

在宅福祉が唱えられ、デイサービスや通所施設の整備が進められました。その延長で高齢者や障害者の地域生活支援が社会の努力目標になりました。

今私たちは「地域福祉」の時代に生きています。遅ればせながら、地域社会、国家社会そのものが「福祉的な社会」であることを目標とする時代であることを確認しなければなりません。経済はそのためにどうしなくても必要な手段ではありませんが、目的にはなりえないものであることも。

先人の足跡④

中沢きみ子医師

細瀨宗重

中沢きみ子さんは十月に除幕された先人の碑に刻印されている四人の中のお一人です。

四人の中ではただお一人、四十五才という若さでお亡くなりになりました。その人生は大変厳しいものがあり、壮絶な戦死といえるものでした。

昭和四十六年当時の海上療養所は二百五十床にならんとするところでした。今日では想像することも難しいことですが、そのような規模の精神科病院に常勤医はお一人でした。非常勤で応援してくださいとお医者さんは何人かおりましたが、全責任と日常業務はお一人といつてよいものでした。

中沢先生が東京女子医大を卒業されて海上寮に赴任されたのは昭和二十五年で、結核療養所としての海上寮でした。海上寮の経営・運営に参画し、結核療養所としての海上寮の医療・経営に尽力なさっていきますが、海上寮が結核療養所から精神科病院へ転科していく中をたつたお一人の常勤医としてただならぬ日常を

送られました。

当時の中沢先生には、どれひとつとっても尋常ならざることがいくつもかさなっておりました。

結核を専門として経験をつんできた先生が精神科病院の責任者としての務めを果たさなければならなくなり、そのための研鑽があったこと。

海上寮が結核療養所から精神科病院に転科していき、最終的に結核棟を全廃し、病院全体を精神科へ切り替えていくという作業途上にあつたこと。

結核病棟は老朽化し、精神科としてやっていくために病院全体の建物を次々と整備していく過程にあり、後の海上寮の中心となる三階建ての海の星病棟が完成間際にあつて大変忙しかったこと。

たつた一人の常勤医としてこれらに立ち向かっていかれたことは、小柄な体の全エネルギーを使い果たし、自らを今日の海上寮の礎石としたことであり、海の星病棟落成式の一ヵ月後、昭和四十六年七月二十九日にお亡くなりになりました。

創立記念日講演会

森一弘師

「信じるということ」

本年度も昨年度に引き続き、森司教様を招聘し「信じるということ」と題して、創立記念日講演会を催しました。

内容をかいつまんで紹介いたしますと、『信じる』という言葉の対象は二つあります。一つには「神が存在することを信じる」という「こと」を信じるという場合、二つには「妻を信じる」「上司を信じる」という「人間関係」を信じるという場合で、後者の「信じる」が人間にもたらす影響は以下の4つに分類されます。まず第一に信じるということは、「人が自分を支えるための究極の土台」、第二は「人と人との繋がりを与える」、第三には「人の愛情や友情、いわゆる心の触れ合う交わりの前提」、そして最後には「未来への希望を与える」です。

「信じる」という行為の裏側には、「絶対確かであるという主観的な判断」があり、換言すれば、「絶対確かだと思える存在に、心の警戒を解いて、扉を開いて委ねてしまう行為」と言えます。

一方、人生の目的は「自分の人生の可能性を育てて、お互い同士が深く交わり合って、幸福になること」

であり、そのための前提条件が「信じる」ということです。

ところが、現実の人生を冷徹な視点で俯瞰しますと、「悪が噴き出して、一人ひとりを追い詰めるという悲惨な状態」にあり、この状態を私たちは「苦」と表現しています。

信じられないために、心が追い詰められ動きが止まり生命力を失うことが「苦」であります。この時に信じることでできる何かが見つかれば、心はそれを対象にして動き始め、人は「苦」から逃避することができません。現実には変わらなくても、信じ切ることのできる何かに向けて心を上げることにより、動きが生まれ、それは絶望を潜り抜けていくエネルギーになります。

その意味で貴会のような福祉施設が、「苦」の渦中にある人たちの人生を支え、「信じる」ことのできる共同体であることに重要な意味があり、これらの共同体を担い続けることは、日本の社会にとって非常に大きな助力になっていると思います。』とのことで、本会にとって非常に勇気づけられる内容でした。

森司教様、お忙しいところ本当にありがとうございました。(石毛記)

障害者週間記念講演会より

聖母療育園 園長 桑島克子

12月8日(水)、聖母通園センター2階ホールにおいて、「障害者週間記念講演会」が行われ、講師には国立看護大学校教授森山幹夫先生を招聘し、「重症児施設をとりまく問題について」利用者主役の福祉の構築の題目で講演頂きました。

利用者主役こそ福祉の基本で支援者側の価値観を押し付けてはならないと強調され、猫の恩返しを滑らせ川に落ち溺れたのを見、拾い上げた。その夜、夢に現れた猫が命の恩人と礼をのべ、自分の宝物を差し出した。雀や鼠の屍骸などで猫には大事なものであっても人には迷惑な品々である。

医療・福祉の現場でこのような事をしていないだろうか？利用者には価値を押し付けていないだろうか？問題はこれに気がついていない事だと断じている。

次に障害福祉を取り巻く状況について述べ、昔の福祉に比し現在のほうが明らかに良いし福祉予算が前年度より減少した事はないと力説

された。福祉関係で働く人は全労働者の二十分の一でありでありその結束で国や社会を動かす事が出来ると話された。

福祉で一番大切なのは人材で特に少子化の時代、長く勤める人は組織の活性化に必要。全体の職員数が同じなら3年目の職員しかない職場より8年目の職員がいる職場の方が質は上である。それには処遇と評価し伝える等が大切。

また、福祉の基本は危機管理、安全を守る事であり自分は間違いを犯すと思うこと、組織での対応やセイフティネットを回らすなどの対策が必要と指摘。

最後に障害福祉は国の存在理由であり呼称は変わるかもしれないが、重症心身障害児施設が必要でなくなることは絶対にならない。技術向上と処遇向上を地域に示し住民を巻き込んだ活動が大切と力説。利用者は月であり、あなたは太陽である。太陽が輝かないと月も輝かないと結んだ。

第21回ロザリオ福祉まつり

昨年度は全国的な新型インフルエンザ流行のため、地域、施設ともに感染予防のためロザリオ福祉まつりを見送りましたが、本年度は幸いにもインフルエンザ流行が巷間を騒がせることもなく、「旧に倍して」をスローガンとして、10月24日(日)に第21回「ロザリオ福祉まつり」をロザリオの聖母後援会、旭市身障福祉会、ロザリオ家族会連合会の共同主催で開催しました。

今年で21回目を迎えるこの行事は、地域社会との交流と地域福祉の発展を目的とし、地域の障害者団体、福祉施設、各種団体、一般及び学生ボランティア、当法人内施設の全てが参加協力する形態で、関係者が心を一つにし、「地域の福祉力(ちから)」を結集して開催する行事として徐々に発展して地域社会に溶け込んできました。

当日は天候にも恵まれて、秋晴れの空模様の中、新鮮な農産物や海産物、日用雑貨、フランクフルトや焼きそばなどの模擬店、ミニ

SL、ふれあい動物園、ストラックアウト、おもちゃつき、うなぎのつかみどり、体育館や屋外臨時ステージを使用して旭市出身の演歌歌手「椎名佐千子」さん初めバンド演奏や福引きなど各種催事等々、盛りだくさんの内容で、たくさんの方々に喜んでいただきました。

ご協力くださった関係者の皆様、ボランティアの皆様本当にありがとうございました。

椎名佐千子さん



ロザリオの聖母会 平成22年度永年勤続表彰

勤続30年

小池 秋男

田中 克明

勤続20年

鈴木 周子

林 ミオ子

宇佐美 純子

勤続10年

高木 美枝子

小林 京子

江波戸 理恵

平野 逸子

梅村 ひとみ

山中 悦子

尾形 豪拓



ボランティア感謝式受賞者

平成22年度ボランティア感謝式の受賞者に、賞状と、ささやかな記念品をおくらせていただきました。受賞者は次の方々です。

- ・ 銚子市立銚子高等学校JRC部
- ・ 栗原頼之・君子様
- ・ 長谷川吉重様
- ・ A C T 浅野 正朗様
- ・ 小見川キリスト教会
- ・ 足川岡若葉会 姥山美香様



- ・ 高木鮮魚店 高木陸朗様
 - ・ 社団法人旭市青年会議所 理事長 網中一史様
 - ・ 千和会 井橋千代子様
- ご協力ありがとうございました。

社会福祉事業功労者等に 対する知事表彰

小池 秋男

千葉県社会福祉協議会長表彰

田宮 民子
 斉藤 利広
 田中 克明
 大久保 浩美

新任者紹介

事務員 加瀬 幸江



物腰が柔らかく、皆をやる気にさせてくれて、気配りができる方です。宜しくお願い致します。

看護師 岡田 晶子



12月から勤務している若くて落ち着きのある看護師さんです。重心施設は初めてですが、やすらぎを利用者さんへ注いでくれることでしょう。皆さんよろしくお願ひします。

支援員 加瀬 まり子



利用者の方々に、一日でも早く信頼していただける様に、頑張りたいと思います。よろしくお願ひします。



▲創立記念日講演会（森一弘師）





▲聖マリア園 クリスマス会
クリスマス会楽しんでます♪



▲障害者週間記念講演会 (森山幹夫氏)



▲聖家族園 クリスマス会
クリスマスプレゼント、何かな？



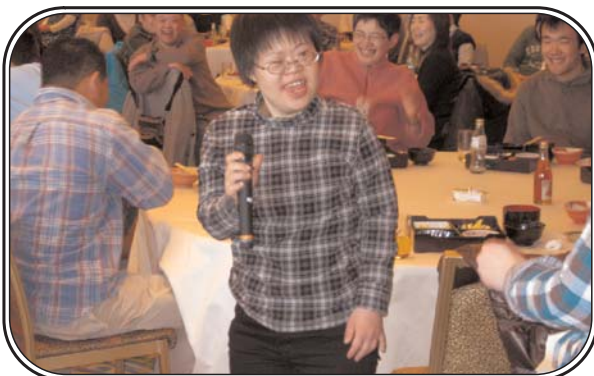
▲佐原聖家族園 クリスマス会
トナカイからの「プレゼント」です!! どーぞ♡



▲佐原聖家族園 クリスマス会
今日は私達、とってもエレガントに決まっているでしょう？



▲聖マリア園 クリスマス会
シャンメリーが早く飲みたいぞ!



▲みんなの家 忘年会
就労した方への質問コーナーにて「職場にイイ男はいますか? (笑)」



▲聖家族園 収穫祭
大きなさつま芋が採れました



個人情報保護に対する基本方針

1 基本方針

社会福祉法人ロザリオの聖母会は、本会及び施設・事業所が扱う個人情報の重要性を認識し、その適切な保護のために自主的なルール及び体制を確立し、個人情報保護に関する法令その他の関係法令及び厚生労働省のガイドラインを遵守し、利用者の個人情報の保護を図ることを宣言します。

2 個人情報の適切な収集、利用、提供の実施

- (1) 個人情報の取得に際して、利用目的を特定して通知または公表し、利用目的に従って適切に個人情報の収集、利用、提供を行います。
- (2) 個人情報の収集、利用、提供にあたっては、本人の同意を得るようにします。
- (3) 個人情報の紛失、漏えい、改ざん及び不正なアクセス等のリスクに対して、必要な安全対策、予防措置等を講じて適切な管理を行います。

3 安全性確保の実践

- (1) 本会及び施設・事業所は、個人情報保護の取り組みを全役職員等に周知徹底させるために、個人情報保護に関する規定を明確にし、必要な教育を行います。
- (2) 個人情報保護の取り組みが適切に実施されるよう、必要に応じ評価・見直しを行い継続的な改善に努めます。

4 個人情報保護に関するお問い合わせ窓口

利用者ご本人から、本会及び施設・事業所が保有する個人情報についてのご質問やお問合せ、あるいは、開示、訂正、削除、利用停止等の依頼について、以下の窓口でお受けいたします。

平成17年4月1日



社会福祉法人ロザリオの聖母会 法人本部
〒289-2513 千葉県旭市野中4017
電話 0479-60-0600
FAX 0479-60-0660

..... 新商品の紹介

近日中に…まっ茶クッキーの販売を予定しております。ほろ苦く…大人の味です。ぜひ、ご賞味あれ！その他のクッキーも販売してます。



★ ★ 自然の恵みに感謝 ★ ★
毎朝、みんなを出迎えてくれます！
『オリジナルリース』
聖マリア デイサービスセンター

各施設より

行事予定

- 23. 1. 4 新年あいさつ会
- 5 経営会議、対策本部会議、総合安全対策委員会
- 12 経営会議
- 14 クリーンデー
- 19 法人運営会議、経営会議
- 26 理事会
- 2. 2 経営会議、対策本部会議、総合安全対策委員会
- 8 平成20年度入職者発表会
- 9 経営会議
- 15 平成19年度入職者発表会
- 16 法人運営会議、経営会議
- 22 平成18年度入職者発表会
- 23 地域生活支援会議
- 26 就職内定者研
- 3. 1 平成22年度入職者発表会
- 2 経営会議、対策本部会議、総合安全対策委員会、合同研修会（研究発表会）
- 8 師長・主任・副主任研修会全体研修
- 9 経営会議
- 11 クリーンデー
- 16 法人運営会議、経営会議
- 23 理事会、評議員会、地域生活支援会議
- 24~26 就職内定者研
- 4. 1 平成23年度辞令交付式、幹部職員顔合わせ会

立ち向かう

私たちは大きな変革の中にある。事業によっては衰退していくように見えるもの、経営が難しくなるように見えるものなどもある。そんな中でモチベーションを保つことが難しくなっている場合もあるかもしれない。

しかし落ち着いて考えてみよう。社会は常に変革の中にあり、そのようにして歴史は作られてきたということがある。

さらに、我々の身の回りにはさまざまな問題があり、他人の手助けを求めているが、誰もやる者の

専用メールアドレスのお知らせ

ご意見、ご感想のある方は下記のアドレスまでお願いします。

koho@rosario.jp

ボランティア募集のお知らせ

ロザリオの聖母会では、施設や利用者のために常時ボランティアのご協力をお願いしています。

お願いのできる方は是非、ご連絡ください。ご協力をお願いします。

問い合わせ

TEL 0479(60)0600

(担当 仲條)

看護職員募集のお知らせ

精神科、障害児者医療に携わる看護師を募集しています。

◆随時面接を行っていますので、

本部総務課までご連絡ください

TEL 0479(60)0600

(担当 採用係)

編集後記

▼今回は、新しい試みとして、各施設から自由にテーマを提供して頂き、紹介させて頂きました。活字ばかりの堅苦しい広報誌ではなく、皆様が読んで楽しく、そして愛される広報誌にしていきたいと、スタッフ一同取り組んでおります。今後も、楽しみにお待ちください。(高尾)

本誌のバックナンバーをロザリオウェブサイトに(<http://www.rosario.jp>)に掲載しています。

精神科・内科(医療保護施設)

海上療養所

精神障害者通所授産施設

ワークセンター

地域生活支援センター

友の会

重症心身障害児施設

聖母療育園

重症心身障害児通園施設

聖母通園センター

障害児デイサービス

ふたば保育園

身体障害者療護施設

聖マリア園

生活介護事業所

聖マリアデイサービスセンター

知的障害者更生施設

聖家族園

知的障害者通所授産施設

みんなの家

障害者就業・生活支援センター

東総障害者就業・生活支援センター

生活介護事業所

聖家族作業所

高齢者支援事業

ロザリオ高齢者支援センター

中核地域生活支援センター

海匝ネットワーク

旭市相談支援事業

旭市障害者支援センター

共同生活介護・共同生活援助事業所

グループホーム支援センター

知的障害者更生施設

佐原聖家族園

重症心身障害児通園施設

つどいの家

共同生活介護事業所

ケアホーム香取

香取市相談支援事業

香取障害者支援センター